

## 深夜勤が導入されて

## 丸二年……

2月8日で職場に「深夜勤」という勤務が導入されてから、丸二年になる。

この2年間で私たちの職場と生活は、どのように変わったのだろうか。

まず、すべての職場がA番B番と隔週ずつ深夜勤をくり返しているため、同じ職場で働いているのにも関わらず、まったく顔を

あわせることなく続いている。これは異常なことではないだろうか。

昨年8月の2特分会のアンケートによると、体調不良・不安を訴えている組合員が59人中51人もいた。そのうち16人は「通院」、15人は「薬を服用」していた。特に問題なのは、慢性疲労の状態が続くことで、持病が

再発したり悪化したりしていることだ。「腰痛」「高血圧症」「不整脈」「高脂血症」「糖尿病」など病気を訴えている人が半数近くもいた。ほとんどの組合員が自分の健康に不安を持っている。そして今でも毎月何人かが、病休で休むということがどの課でも、現われている。

また、精神状態も悪くなっているのではないか。「何度も目が覚め、2時間以上連続して寝たことがない」「呑んでも仕事の疲れが癒えない」「これでは、とても文化的な生活をする条件なんて無いのではないか。「ささいな事でイライラする」「憂鬱」「怒鳴つてしまう」「寝つきが悪くなった」など訴えている組合員も増えている。

「過労で死んだらどうするんだ」「労働条件には私たちの命がかかっている」「今の労働条件を

放置しておくことは組合の重大な責任であり、早急に改善してもらいたい」と切実な声を上げている組合員が多くいる。

支部は、この間あらゆる場で次のことを強く主張している。

(1) 深夜勤の改善・見直し

(2) 「夜間手当の連続加算」支給要件の緩和

(3) 深夜勤の回数・超勤のあり方

(4) 郵便時短の検討

(5) 夜間労働者の処遇改善などなど…。

しかし残念ながら目に見える形で前進してはいない。

労働医学上の実態調査などおこなって、労働安全委員会や上部機関により強く反映させていって欲しい。

(多くの組合員の声より)

## 2005年度JPU新東京支部青年部主催 冬レクのお知らせ

**内容; スキー・スノー&ワカサギ釣り**

**日にち; 2006年2月18日(土)~20日(月)【車中一泊、ホテル一泊】**

**場所; 木島平スキー場&野尻湖**

**宿泊先; ホテル・レイジャント(木島平スキー場目の前)**

**参加費; 2万円**

※一日目のリフト券orワカサギ釣りの乗船代は、参加費に含まれています。  
二日目につきましては、各自自由で各自負担となります。

**日程; 一日目(2/18)→23:00 東京駅or池袋駅集合(バスにて現地へ)**

**二日目(2/19)→ 6:00 現地到着**

※ホテルから野尻湖へバスで40分です。ワカサギ釣りは、7:00出船になります。

**三日目(2/20)→13:00 現地出発(それまでの時間は自由です。)**

## 投稿

## は笑いの元ですよ

小泉首相は、今年に入ってから「中韓が靖国参拝を抗議する理由がわからない」「靖国参拝を非難するのは中韓だけ」などと発言し、中韓の靖国神社参拝反対の姿勢に不快感を露わにしている。あるニュース番組の解説でも言われていたが、首相は国内に敵がいなくなったので、中韓を次の抵抗勢力と位置づけたのではないかと思われる。現在首相の靖国参拝に対する世論も賛否が拮抗しているので、ここらで威勢の良い発言でもかまし

て世論を味方にし、靖国参拝を正当化したいのだろう。でも、待つて欲しい。今までなら、同じ日本人同士で腹の探りあいをしながら駆け引きをしていけば、そのうち相手が折れて万々歳となるだろうが、今回は外国相手なのだから、日本の思惑に乗ってキリのいいところで怒りの矛先を収めてくれるかどうか計り知れないし、いくら日本の景気が良くなったといっても、私達一般人の衣服や日用品(やアニメの制作)の

多くをメイド・イン・チャイナやメイド・イン・コリアなどの輸入に頼っている以上、経済の混乱を招く危険の方が高いのではないだろうか？

それに、日本人から見れば国を守るために戦った兵隊たちだが(A級戦犯が国を守るほどの行為をしたかは? だけど)、中国・韓国にしてみれば、自分たちの祖国を踏みにじった兵隊だった、という事を考え至つてもらいたい。

威勢の良い発言は確かにカツコイイかもしれないけれど、発言する側も、それを受け取る側も、それに踊らされずに自分で考える理性を持ちたいものだ。

# 二人に一人が「苦しくなった」

JPUが昨年11月に実施した生活実態調査の結果、組合員の5割が生活が苦しくなったことがわかった。

JPU組合員のこの1年間の暮らし向き評価は、「楽になった」は4・3%と少なく、「変わらない」(43・5%)が4割強、一方、「苦しくなった」は非常に苦しくなった」は合わせて49・1%と約5割の組合員が苦しくなったと訴えている。

暮らし向きが「苦しくなった」比率を男性年齢別にみると、24歳以下の3人に1人強から加齢に伴い増加し、40代後半から50

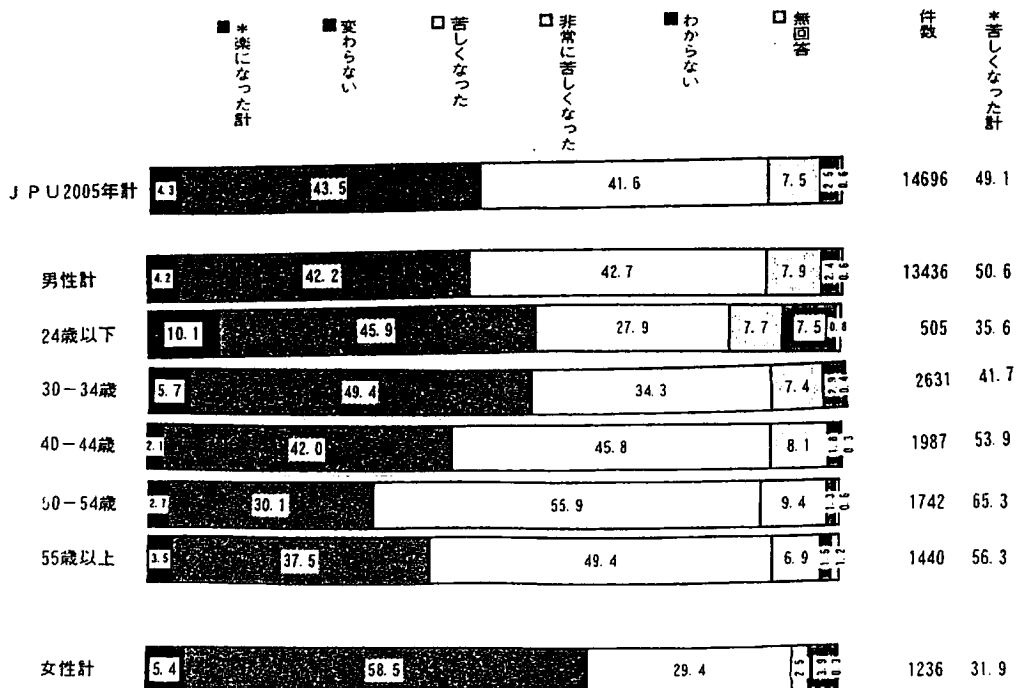
代前半層では3人に2人程度に及んでいる。

中高年世帯では

3人に1人が赤字

世帯の家計収入の現状評価をみると、「貯金や繰越ができる」(23・0%)といった黒字世帯は2割強にとどまり「収支トントン」(48・9%)がほぼ5割、「貯金の引出しや借金でやりくり」(23・4%)といった赤字世帯が2割強となっている。

家計収支感を赤字世帯の比率を通してみると、男性の40代後半から50代前半層では3人に1人が赤字世帯となっている



## 第39回支部委員会報告

2月6日、大会議室に於いて第39回支部委員会が開催されました。

議長に三特分会の荒牧委員が選出され議事が進行されました。

来賓にはポストライフ東京地方部長の小野寺さんが参加され、マイカー共催についての取り組み依頼がありました。

今回の支部委員会は第61回臨時全国大会に提案されている、郵政民営化法案成立を受けて今後の運動方針確立を行うという本部の

議案に対して支部の意見を集約する支部委員会でした。

以下、支部委員会で論議された内容を報告します。

(二特)本部は今までの闘いを確認する大会といっているが、分会役員として振り返ると、署名、デモ、有明集会、そして選挙があったが、自分としてやるべき事をやったのか疑問。民主党もブレてきた。労組と一線を画すといっている。いつまで支持しているのか不安だ。

(二輪)労働条件に関して準備企画会社と交渉するとうが、あ「公社の内退職する人か」民営化になつて退職するか迷っている。再任用、退職金など見えない。決まってるから情報ではなく交渉の(一普)職員について非常勤の帰属が見えな筋を示して欲しい。

(一輪)「基本要求」を出したというが、「人事交流に関するシステム」要求しているが出来るのか。(一特)一連の行動あつたが、本部の自己満足に見え。気持ちの切り替えが出来ない。(二普)何故民営化に反対してきたのかとい

を守り、国民にユニバサルサービスを提供する。職場はどうなるか。深夜勤務導入でヘトヘトだ。集配センター化だされてるが、地方は集配特定局の受け持ち範囲が広がって大変になる。集配再編成で、全国ネット守れるのか。誰のための民営化なのか。ビジネスモデル、物流にソフトで良いのか。

(支部中間答弁)集配拠点化は東京的には多摩地域の一部と島。関東で不安が出された。利用者へのサービスダウン、労働者の条件に問題がある。何故民営化反対か問われている。制度、帰属、労働条件、雇用等々一年八ヶ月で決まる。この間の対応について弱さ、組織現状振り返る。支部として雇用や労働条件守る

ため「数は力」と仲間を拡大してきた。その成果と教訓を確認したい。「組合員が安心して働き続ける」立場で意見反映。情報も丁寧に伝えたい。非常勤の雇用は本部も取り組むといっている。人事交流は分社化のなかで行き来を自由に出来るグループ経営ということ。(二特)組合に加入している非常勤に雇用を守るという体制を。本部はリスクを説明していかない。(支部答弁)要求書を出して雇用継続求めている。(一特)憲法を守る取り組みを。分社化されるよう求める。条件になる(三特)仕事が忙しいのに他部応援出している。管理者能力が問われる。非常勤評価に納得

得行かない面がある。(二特、二小)四連続深夜勤とか十時間二交代の噂があるが不安だ。(郵窓)幹部がミーティングで「窓口必要な」と発言。志気が低下。物減で減員というが冊子など増えている。(一輪)不払い残業。管理者は帰りなさいと口で言うだけ。仕事残らっている。(二特)小包、一特、二普など一年中応援で回っている。何で減員なのか。非常勤定数把握しているのか。(二普)能率向上手当支給ない。年間十数万円差がでる。冊子増えてくるのに減員は納得できない。十時間二交代支部は反対して。(二特)民営化で固定勤務者は不安だ。(一特)休憩休息とれ

ていない。この現状を放つていいののか。(一普)アクシヨンプランフェーズ2で減員、非常勤化。管理者の整理を。アウトソーシング、十時間二交代の噂飛び交っている。日刊紙で情報を。(一輪)育児休業。後補充を。(支部答弁)プレミア手当は変化なし。四月から四連続深夜勤はないと考えている。十時間二交代は奈良大会以降議論はない。支部は夜間労働の条件改善を求めている。物数増で減員はおかしいと考えている。いつまでも5月物調算出はおかしい。現場の実態にあつた要員求める。これから安心して働ける雇用と労働条件求める。現場の不安を払拭する立場で意見反映。今の

労働条件と民営化後の労働条件をどうするのかが発言していく。能率向上手当、業務精通手当、ゆうメイトスキルアップ等々の問題点も言っていく。また、四連続深夜勤が入るとか、十時間二交代が新東京に入るとかの噂やデマについては執行委員が無いと言つたらないと思つて欲しい。民営化に関する基本要請を提出して精一杯やつている。機関の情に目をとおすことが大切だ。定数非常勤は時間計算している。単純な人数ではない。以上、活発な討論が行われ、地方委員会に意見反映していくことになりました。

日 刊	新東京	NO. 3995	2006年2月10日(金)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

## 年末始繁忙を振り返って①

挨拶が遅くなりましたが、今年度もJPU組合員の皆様、大変お疲れ様でした。

今年度も業対会議を部ごとに行い、きめ細かく繁忙期を検証し、また来年度のステップにしたいと支部・業対部は考えています。

既に小包部・特殊部の会議が終了していますので、順を追って紹介していきます。他の部も近日中に開催予定です。

### <小包部>

何と言っても一番問題なのが小包部ですが、今年度は前年度の反省を踏まえ、準備も早めのスタートが切られました。

今年度は国際局も移転してきていますし、クリスマスのメール・小包の増加に伴い短期ゆうメイトの募集がかち合ってしまう等、条件が悪くなっています。

また前年度は、支社の応援・管理者で何とか乗り切ったとの位置づけでした。同じ事は繰り返さない。支社は応援に出ないとの決意が伝わるように、ゆうメイト確保に取り組み、前年より上手いったと感じています。

そのような状況を踏まえて、報告してまいります。

### 1. 要員・指定表

①一小では、本務者のデパート・新棟の派遣が響き、要員には苦勞した。

特に書留の処理に苦勞した。年末には書留が増える、処理方法はいつもと変わらない、書留には応援が入れない等。

特に伝3, 4号便の交付が遅れた。大変だった。

夜勤ゆうメイトの増員が必要と考える。

②二小では、短期ゆうメイトが足りなかった。応援が入って何とかした。

廃休・〇超が計画的でなく、本務者の活用がされていない。

J P S・共通関係には超勤を掛けたが、当課の職員にはあまり掛けていない。

- ③三小では、夜勤帯の要員が足りなかった。やはり伝3が厳しい。  
廃休・○超が計画的に行えた。
- ④デパートの要員は大丈夫だった。  
前年より物量が少ないと感じた。
- ⑤新棟では、夜勤のゆうメイトが余っていた。  
22:00以降の要員が足りない。

## 2. 良かった点

- ①羽田分室でFC（フライトコンテナ）のチルドを開披し、近県・外周など直接、便を引いて送った。
- ②通常の小包のFCも羽田分室で開披した。
- ③三小のFC積み込みを、エアメールでやった。（通年エアメールが積み込みをするようになった）
- ④新棟と本局のシャトル便が有効だった。
- ⑤日通車の床のレールをはずし、リースパレットも積める用に改良してくれた。

## 3. 悪かった点

- ①運送便関係に問題の有る地域があった。  
臨時便がいつも取れないのに、増便の設定が少ない。  
特に新潟など。また逆に載せる物が無いような増便が有った。
- ②質の悪いゆうメイトがいた。喧嘩になりそうな状況もあった。
- ③川崎港から九州・東海方面の継越パレットが数多く到着するが、直接出せないのか。
- ④那覇・北海道のフライトの臨時が出せなくて、局内にかなりの数のパレットが残った。  
前年度も同じ様な事があり、結束が守れない状況になるので、来年度は同じ事を繰り返すべきでは無い。
- ⑤休息室は短期・長期を分けた方がいい。
- ⑥課長代理の新人が仕事を回せず大変だった。  
経験がないのに回すのは困難と思われる。
- ⑦課長代理の労働条件が悪すぎる。  
休憩・休息が取れていない。  
明けでも事故・壊れ物等の処理で帰れない。

次回に続く



## 年末始繁忙を振り返って②

先週の続き

<小包部>

### 3. 悪かった点

#### ⑧新棟関連

新棟で扱わない小包（チルド・ゴルフ・書留等）が、各局から到着した。

新棟・本局の協定台数を単純に半分にしただけの地域があり、毎回連絡を取らなければ結束出来ない地域が有った。

本務者・長期ゆうメイトが、休憩・休息を取れない部分があった。

新棟の短期ゆうメイトを、固定した担務にした部分もあったが、休まれてしまい仕事廻しに苦労した。

#### ⑨ゆうメイトに、深夜勤と深夜勤の間に超勤をかけていた。

緊急時と受け取れなくは無いが、改善すべき部分だ。

以上の様な意見が出ました。

また年末繁忙には関係ないが、小包区分機の更改の話題も様々でした。今の所、未定の部分も多く不安を抱えている人も多いが、ターゲット10を目指すシステム作りだと考え、支部・業対部としても知恵を出し、局とコミを計っていく決意です。

その他では、越ヶ谷新局の建設の問題など、雇用に関する不安を述べる人もいますが、あまり噂に左右される事なく、前を向いて欲しいと考えます。

話はくどくなりますが、小包区分機の更改などでも様々な噂が流れています。例えば区分機が出来れば、課が一つになるなど、何も決まっていない事に惑わされる事なく、一つ一つ問題を解決したいと思います。

<特殊部>

1. 年末の反省、等

- ① 東名集中工事で翌朝が遅れた。どのような対処をしていたのか？
- ② 雪害による便の遅れ対策が統一されていない。またその日の担当者によっても違いがある。
- ③ 超勤をしていたのが管理者、計理、JPSのみ。現場職員にはやらせない状況にあるのか？
- ④ 年賀早出しキャンペーンの周知不足。包装が破けているものが多数あって、修繕に手間がかかった。差立局によって理解度が違い過ぎる。
- ⑤ 臨時出張所が年末の平日にもあった。おかげで伝上1処理時に現場職員がいなくて大変だった。
- ⑥ 出張引受等で現場職員がとられた。そういったところで廃休・〇超を使うべきでは。
- ⑦ 配達記録が多いのに現場に管理者がいない。いつも他部課の応援に行っている。
- ⑧ スピードUPの差立時間が過ぎても、伝3の到着が遅れているので差し立て出来ない。
- ⑨ 赤蓋が慢性的に足りない。
- ⑩ 翌朝が非常に遅れた。
- ⑪ PMSの故障が多く、便の到着状況が分からなかった。

以上

赤蓋の問題は毎年出てくる事で、そろそろ解決策を考えるべきと強く求めたい。

輸送部・普通部は近日中に会議を開き、報告をしていきます。

日 刊	新東京	NO 4000	2006年2月17日(金)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

## 雇用と労働条件の将来展望を切り開こう

### 〔臨時全国大会へ第23回地方委員会を開催〕

去る2月7日、総評会館において臨時全国大会に向けた東京地本としての意見集約を行うJPU東京第23回地方委員会が開催されました。今臨時大会は、郵政民営化法案の成立を踏まえ、今後の運動方針確立をはかる節目となる大会。前日に開催した支部委員会の意見集約を踏まえ、支部からは、以下の内容について意見反映をしました。

#### 【地方委員会における新東京支部の発言（要旨）】

1. 支部執行委員会では、この間の民営化対応で努力してきた成果と教訓を正しく評価し、確認しながら、2007年10月の民営化を正面から見据えて、支部組合員の現状の正しい理解と認識統一をきちんとはかる必要があると判断し、全組合員を対象に支部オルグを実施してきた。羽田分室を含めて延べ42回の集会を開催し、530名が結集した。集会参加者は、真剣に話を聞いていた。支部委員会でも様々な職場の声が出されたが、民営化に対して組合員は不安な気持ちにある。加えて、この間の各種効率化施策や減員施策の続く中で、とりわけ、2年前の勤務時間見直し施策によるサービスの改悪、労働条件の著しい低下等、様々な矛盾を抱える職場状況の中、これからどれだけ働く者へのしわ寄せがあるのか？将来展望が全く見えない不安な気持ちに、現場はあると言える。したがって、これから将来にわたって安心して働き続けることができる安定した雇用と労働条件の確保に向けた労働組合＝JPUの考え方、運動方針をしっかりと確立し、現場の不安を払拭するていねいなとりくみが強く求められており、このことを中央本部、そして、地方本部に強く求めたい。

2. 以下、「春季生活闘争関連」と「公社の経営基盤の強化」を中心に、支部委員会で取りまとめてきた意見を何点か申し上げ、地本執行部の見解を伺いたい。

(1) 春季生活闘争の主要なとりくみに関しては、① 非常勤組合員からは、本務者同様に実質的な雇用継続を求め、採用制度を含め抜本的な非常勤職員制度の改善を求めるJPUの考え方が、民営化に関する「基本要素」として提起されていることに、強い期待が寄せられてる。また、現行の非常勤職員の処遇改善の考え方が示されているが、JPUの考え方をもっと分かりやすく周知し、宣伝する工夫をお願いする。② 2006春季生活闘争の具体的とりくみに関して、「不払い残業の撲滅と労働時間縮減、ワーク・ライフ・バランスの確立」が提起されているが、夜間交替制職場の →裏面に続く。

⇒表面より続く 労働時間短縮という視点からの要求提起を強く要請する。深夜勤務明けが非番日指定となることによる週休2日制とならない矛盾解消を強く求たい。

③ 人事評価制度に対するとりくみについては、生活実態総合調査結果でも示されているが、制度や運用上の改善が不可欠。賃金にも反映することから早急な見直し・改善を強く求める。④ 基礎昇給への評価結果の反映等に関しては、人事評価制度の運用状況の見直しと改善が大前提であり、ていねいなとりくみと慎重な交渉対応を求めたい。

⑤ 郵便関係手当改善のとりくみについては、運用にあたり業務実態に即したものとなるよう、支給基準や認定のあり方について見直しを求めると提案されているが、支部としては、区分能率向上手当及び業務精通手当の新東京の現状と問題点を別途、提起するので改善を強く求める。また、年末年始特別勤務手当に関して、深夜交替制勤務職場の実態に見合った見直しについても求めて欲しい。

(2) 会社の経営基盤強化に向けたとりくみに関しては、① アクションプラン・フェーズ2の効率化施策は、これまでも主張してきたように、働く私たちにとっての労働条件低下のみならず、業務運行基盤そのものを危うくさせている。この間、繰り返し求めてきたが、これまで実施してきた各種効率化施策による影響が、職場にどのように現れてきているのか、改善すべき課題は何か、しっかりと検証する必要があると考える。

② 郵便ネットワークの拠点としてオペレーションの重要な任務を受け持つ新東京局における現状の業務量と要員には歪みが生じている。アクションプラン・フェーズ2で示されている「郵便内務事務のアウトソーシング」は、反対の立場で対応するとともに、「郵便内務の10時間二交替制勤務」は、この間の経過から、現行深夜勤体制の見直し・改善が優先であると考えている。東京として、深夜交替制職場の労働条件改善の道筋を改めて強く求めていく意見反映をしていくべきと考える。「物数減等に伴う要員配置の見直し」については、非常勤化施策と併せて新東京局トータルでは、本務者46人減、時間制定数90.0人減の数字が示されており、非常に厳しい対応となってる。現行の要員算出基準の見直しが必要だと認識している。

#### 【新東京支部の発言に関連する地方本部の見解(要旨抜粋)】

\* 地本大会要求を提出する等努力してきたが、労働条件や業務運行基盤そのものも極めて厳しい実態にあると認識する。どこをどう精査して、どう改善させていくのか、増員要求を根拠を持って求める運動を東京からつくり上げていく決意だ。交替制職場の時間短縮は、本部に求めていきたい。

\* 人事制度、手当に関しては、新東京と同じ認識。賃金体系は、公社の持ち出しによる完成形をつくらせていくことを念頭に、問題点の改善を目指す。

日 刊 新 東 京	NO 4001	2006年2月20日(月)
	日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
	03-5690-2847	内線 4163

## 事業と雇用・労働条件の両面からよりよい会社へ 郵政民営化へ向けた方針を確立する 第61回臨時全国大会報告①

### 【臨時大会の概要】

JPUは第61回臨時全国大会を2月9日～10日にわたり、東京・日本青年館で開催。大会は、私たちが全力で闘い抜いた郵政民営化反対の闘いの成果の確認と、組合員の期待に応える今後のとりくみについて、活発な議論が行われた。また、06春季生活闘争、アクションプランへの対応、厳しい環境下にある輸送部門のとりくみ等について真剣な議論が展開された。二日間の討論の後には運動方針の採決を行い、9割を越す高率で本部原案が承認された。今大会で決定した基本スタンスに基づいて、今後加速する民営化準備作業に対応し、事業と雇用・労働条件の両面からよりよい会社をつくりあげ、2007年の民営化スタートを迎えられるよう組織の総力をあげていくことが臨時大会の総意として確認されて閉会となった。

### 【菰田委員長の挨拶（要旨）】

- \* 郵政民営化法案の否決は、政治的にも労働運動史上からも歴史的成果であり、組合員、すべての関係者に感謝。しかし、その後の特別国会での法案成立には、組織の責任者として申し訳ない気持ちで一杯である。
- \* 理念なき郵政民営化に反対した私たちの行動は、不条理に向かう社会正義の闘いであり、国民生活直結の社会インフラは市場万能主義にさらしてはいけない。郵政事業は、三事業一体、全国ネットワーク、ユニバーサルサービスの基本理念を大切に、『公』の使命、役割を見失ってはいけない。
- \* 民営化に向けた今後の労使交渉の基本的考え方として、民営郵政のめざすべき方向性は『公』の新たな企業を創造することであり、公企業として持続的な成長を実現するために郵政部内の『内なる力』を最大限に発揮しなければならない。
- \* 労使関係は公社時代のパートナーシップを引き継ぎ、さらに高度化する必要がある。公企業論をベースに事業を発展させることが認識一致の入口。
- \* 今次春季生活闘争においては、賃金水準の維持・改善に全力をあげ、非常勤職員の雇用の安定と処遇改善にとりくみ、民営化に向けて新たな非常勤職員制度の確立をめざす。非常勤職員の組織化へ一層の行動展開を。

**【東京地本の大会発言（要旨）】**

- \* 東京地本は、全国の仲間とともに郵政民営化反対の闘いを全力を挙げてとりくんできた。闘いの中で都議会議員選挙で組織内候補の初当選、組織の拡大等、大きな成果をあげてきた。また、郵政関係団体との信頼関係もこれまで以上に強固なものとなった。
- \* 民営化・分社化が決定後は、地本として全支部オルグを実施して、組合員の不安解消に努力してきた。
- \* 本部のこれまでのとりくみに賛成するが、未だ民営化後の各会社の全体像がはっきりせず、職員の帰属の問題では、本社支部・支社支部・島嶼支部組合員の不安がぬぐえない。早期に全体像を明らかに。また、公的な役割はますます重要。今後の交渉で、労働組合の果たす役割は大きい。本部の誤りなき対応と粘り強い交渉を要請する。
- \* アクションプランの効率化施策は、すでに、働く私たちにとって限界となってきた。また、東京の業務運行基盤そのものを危うくさせてきている。このまま放置するならば、郵便への信頼を失いかねない事態に陥る。これまで実施してきた効率化施策の影響が職場にどのように現れてきているのか検証を行う必要がある。深夜勤導入から2年経過したが、健康面を意識した改善を強く訴える。郵便内務事務のアウトソーシングや10時間二交代制勤務の導入には慎重の上にも慎重な対応が必要。
- \* 輸送部門ではたらく組合員は、競争入札と輸送費切り下げの中で、大変厳しい状況に追い込まれている。「職場と雇用確保」に向けて、残る長距離27便の競争入札に対して、全力を挙げたとりくみを。また、コスト削減が目的ともとれるような契約期間中の契約打ち切り、競争入札実施という事例も見られる。本部の的確な対応を求める。
- \* 06春季生活闘争ではJPUとしては、国営企業部会として要求額を掲げたとりくみを展開するように積極的に働きかけていくことが必要。非常勤組合員の処遇改善に向けて賃金面での改善と本務者への道を切り開くなど抜本的な処遇改善を求めた交渉強化を。
- \* 残念ながら東京では、36協定再締結を余儀なくされた局所が続出する状況になっている。物数減はあってもサービス向上や品質管理に関連した付帯作業が増加し、作業量自体が減少しているわけではない。不払い残業の撲滅や労働時間短縮等を含め、システムや業務の見直しを訴える。郵便内務の夜間交替制職場においては、非番日の取得感がなく、業務自体も夜間に集中していることから、郵便内務夜間交替制職場における時間短縮の検討に着手していくことを要請する。
- \* 郵便関係手当については、業務実態とマッチしていない手当もあり、各局間、各課間によるアンバランスが拡大している。早期に完成形にさせた上で、見直しに着手して欲しい。

日 刊	<b>新 東 京</b>	NO 4002	2006年2月21日(火)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

民営化へ向けた対応、春季生活闘争、  
アクションプラン、輸送部門、平和問題など、  
活発に討論 第61回臨時全国大会報告②

**【全国の仲間の発言の概要】**

大会討論は、各地本・沖縄県連協から、13名の代議員が発言。各発言者は、本部原案を基本的に支持しつつ、各地方の状況を踏まえての補強意見が提起されていた。主な発言は、集配の2ネット方式導入に伴う要員問題。特に非常勤職員の確保の問題。集配拠点の再編ら関連して、再編エリアの問題や通勤問題、生活との関連、お客さまサービス確保との関連などの課題について意見や心配、要望が出された。特に広大なエリアや島嶼を含むエリア等が想定される地方からは、切実な訴えが出されていた。また、職員の帰属問題とも関連し、苦情処理のあり方・ルールに関する意見も多く出された。そして、全国のどこの地本からも共通した意見として、非常勤職員の確保問題と安定・継続した雇用、処遇改善、さらには本務者への道を切り開く抜本的な制度改善求める意見が出された。公務員制度改革に関連して地域給導入問題。平和の問題と憲法改悪反対のとりくみを求める意見。輸送部門組合員の雇用、処遇、経営に関するとりくみ強化を求める意見。…が活発に発言された。東京地本は、全国とほぼ同じ立場で、地方委員会の取りまとめを踏まえて、平野代議員が発言をした（東京の発言概要は昨日の日刊紙で報告）。

**【中央本部の見解①（竹内政策部長の答弁要旨）】**

職員の帰属、関連する集配拠点の再編と貯保外務員の集約化、アクションプラン・フェーズ2関連については竹内政策部長から本部見解が示された。

\* 議案で示している帰属決定プロセスに基づき帰属決定基準日とし、その時点で従事している事業・業務で帰属会社が決定されるという大原則を組合員に徹底していくことが必要。それぞれの会社が業務が滞りなくスムーズに移行するためには、この原則と異なる会社を希望することはできるが、希望がかなう幅は狭いと判断する。民営・分社化以降の会社間の転籍（人事交流）は検討するとの意向が示されており、重要事項として実現にとりくむ。非常勤職員の方々の新会社への雇用継続と確保に向けて最善の努力を傾注する。苦情処理のあり方は、形式的にならないよう強く求めていくが、あくまで帰属決定基準を踏まえ調整するよう強く認識する必要。

\* 集配拠点の再編は、今後の郵便事業会社における物流事業への展開を考えた場合、必要不可欠と判断する。貯保外務員の集約化は、小人数配置を

回避し、営業やコンプライアンスの強化のためにも、エリアの広域化や集約は必要と判断する。本部は、組合員が雇用への安心感を持てるように、職員の帰属、業務とサービスの確保を最優先に行うことを前提に要求書を提出する。検討に当たっては、職員の生活圏・通勤事情等も考慮させ、離島・山間僻地等は、地理的条件、職員構成を念頭に郵便局会社との連携など柔軟な体制を求め、内外一体化施策について現行労働条件を確保した上で求めていく。今後の交渉対応を強化し、最大限のとりくみを進める。

- \* 内務職・外務職の統合は、長年の要求であり、平成19年4月1日での実施の考え方が示されてきているが、地方と検討し中央交渉を進めていく。
- \* 人事異動、志願制承認システムの運用及び勧奨退職について、実施の可否や帰属決定との関係は引き続き交渉を進めていく。
- \* アクションプラン・フェーズ2における効率化と職場の現状について多くの意見が寄せられたが、第60回全国大会確認に基づき、再三にわたり要求交渉等をとりにくんで北が、特に、欠員貞享、サービスアップ、品質管理強化等により、職員の過度の負担に頼る業務運行から脱却するためには、非常勤の安定確保が不可欠との立場から、本年末年始繁忙の状況も含め、現在の職場状況については認識しており、引き続き公社対応を進めなければならないと考えている。本部としては、部分的補修だけでは厳しいと判断しており、将来を見据え実効性のあるオペレーション体制、作業システムの改革等について、地方と連携し検討を深めていく。
- \* JPSに関して、引き続き公社に対して、拙速に施策のみを押し付ける推進方法を改め、職員からの知恵と気づきを大切に納得性ある推進方法とすることが重要。そのためには、コスト削減のみに目的を置くことを改め、人づくりと意欲向上へと結びつくことを基本に、真に生産性の向上につながるJPSとすることを強く求めていく。 < 続 >

### 民営化に関わる基本要求的構成

#### ◇ 民営化の基本設計

- ・公企業として持続可能なビジネスモデルの構築
- ・郵政グループ経営の確立
- ・経営自由度の早期拡大と基盤強化
- ・コーポレートガバナンスとCSR確立

#### ◇ 確実な雇用の承継

- ・帰属方針の労使協議
- ・帰属に係わる本人希望の尊重
- ・苦情処理ルール整備
- ・再任用職員、短時間職員の雇用承継
- ・非常勤職員の雇用継続

#### ◇ 労働条件、人事制度の確立

- ・基本的な労働条件（公社時代）の引き継ぎ
- ・郵政グループ労働基準の確立
- ・働きがいのある労働条件の改善
- ・グループ内人事交流ルールの確立
- ・非常勤職員制度の抜本的見直し

#### ◇ 労使自治による労使関係の確立

#### ◇ 福利厚生充実



日 刊 新 東 京	NO 4003	2006年2月22日(水)
	日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
	03-5690-2847	内線 4163

民営化前年 雇用と労働条件確保へ全力を！

今こそ力を合わせて、展望を切り開こう

## 第61回臨時全国大会報告③ (最終回)

大会最終日、質疑討論を受け、郵政民営化に対するとりくみ、新賃金交渉の考え方、非常勤職員の処遇改善と組織拡大、輸送部門の取り組み、平和問題に関して、米田企画部長から中央本部の考え方が示された。昨日掲載した竹内政策部長の本部見解と併せて、討論は打ち上げられ、運動方針に対する一票投票による採決が実施され、結果は、賛成302、反対23、無効2、棄権0、となり、採択された。極めて高率で採択された運動方針のもとで、2007年10月の民営化スタートに向けた、とりくみが展開されていくことになった。JPUの要求実現のためには、交渉を支える体制づくりに全国で全力を挙げていかなければならない。“数は力なり”今こそ、未加入者の仲間に対するJPUへの加入を大胆に呼びかけていく時である。

### 【中央本部の見解② (米田企画部長の答弁要旨)】

- \* 郵政民営化に対する意見は、本部議案の補強と受け止める。この間、本部を支え、民営化対応をここまで進めてきた組合員の皆さんに感謝。民営化反対の闘いの評価は、民営化阻止はできなかったが、雇用の法定承継、公社時代の勤務条件への配慮義務、郵便局の全国あまねく配置、グループ経営を可能とするスキームなど、雇用確保と事業の持続可能性に結びつく多くの道筋をつけられたことは共通認識に。民営化以降、雇用と労働条件に経営状況が直結。経営の自由度の拡大、グループとして持続的成長が可能となる制度設計を経営側に求める。企業の社会的責任や経営に対するチェック機能の果たしていく政策力・交渉力強化が必要になる。準備企画会社との今後の交渉の進め方は、時期を逸せず速やかに意志決定できる体制を経営側に求める。2月下旬には、「労使協議会」的な場をスタートさせ、その後、6月の全国大会での交渉到達点の判断とすれば、4月早々には一定の交渉整理へ。情報周知のあり方は、内容、周知方法などを慎重に判断して適切に対応したい。JPU組織のあり方については、新会社の組織、機能、権限に基づいて検討。様々な環境変化を含め、6月の定期大会に骨格を提起し、1年間の検討を経て来年の定期大会で決定する。
- \* 新賃金交渉のとりくみ、要求のあり方は、民間賃金動向等の全体情勢を慎重に見極め、国営企業部会の意識統一を踏まえ対応。自主交渉・自主決着を基本に据え、一時金の年間妥結をも視野にとりくみを強化。評価結果の基礎昇給への反映は、人事評価の安定的運用が不可欠であり、地方と連

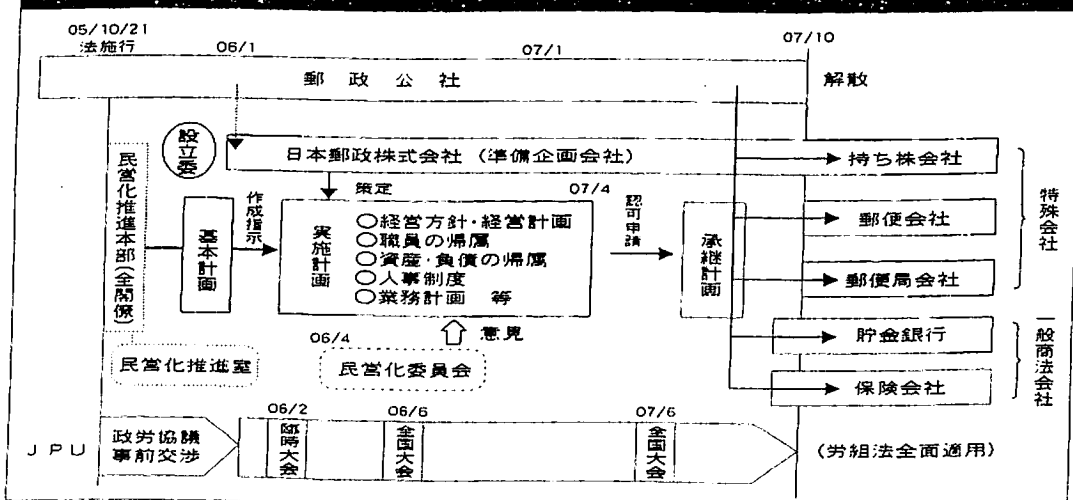
携して交渉を進める。人事院勧告で出されている民間との格差4.8%の水準引き下げと、その原資をもとに都市部への地域手当や関連した退職手当法が改正され見直し検討がされていることに対して、公社の場合は、賃金は団体交渉・労使自治となっているものの、退職手当法の適用は受けることになる。しかし、1年半後には民営化が決定しており悩ましい課題となっている。今年度内に公社側からは、地域給導入の提案が想定され、改正退職手当法の猶予期間は1年は、法定事項であり、厳しいのは事実。地域間バランスを考慮し、組合員に理解を得られる制度の検討を進める。

\* 非常勤職員の組織化は、労働運動全体の最大課題。非常勤職員の組織化と処遇改善は運動の両輪。2万4千人の拡大目標必達に向けた果敢な取り組みを要請する。民営化までは、賃金単価引き上げ、スキル基準や認定制度の改善、次世代育成支援制度の充実等を中心に、現行公務員法制の下で最大限の処遇実現をめざす。その上で、民営会社における新たな非常勤職員制度は、本務者への道を切り開くことを軸に、長期安定雇用に向けた処遇改善を強く求め、必ず実現させたい。

\* 引き続き厳しい環境にある輸送部門の展望確立は、民営化後の輸送の位置づけがどのようになされるかにかかっている。郵便事業の発展は、高品質なオペレーションが必須条件。輸送品質確保と高率的ダイヤ編成の確立は今後の重要課題。専自だから郵便輸送を任せられるという体制を作り上げることが重要、「輸送プロジェクト」を立ち上げて、臨戦態勢を要請。

\* 平和の問題について、連合は憲法問題を含む「国の基本政策」の拙速な議論は本質的な解決にならないとして慎重姿勢を示している。JPUとしても、連合方針を尊重しつつ、慎重に対応する必要があると判断している。平和を志向するJPUの運動は、広島・長崎・沖縄における独自行動を積み上げ、不戦の誓いと平和の尊さを内外に訴えてきた。平和を守る理念を今後も一貫して堅持することは社会的責任。中央・地方の平和行動へ積極的な参加を要請する。

### 郵政民営化のスケジュール (イメージ)



## これでいいのか大口窓口は

当たり前のことだが新東京の大口窓口は、引き受けた郵便物を最初に触れる職場である。まず差出票と郵便物を確認する。種別、通数、金額、割引の適用があるか、正しい区分方法で出されているか等厳密にチェックする職場である。いわば肝心<sup>かなめ</sup>要の職場だ。この、精査を第一とする職場が要員不足で適正検査が困難になっている。今に始まったことではないが、処理する郵便物数と付帯作業に起因する業務の繁雑さに要員が全く足りないのが原因だ(窓口業務、私書箱、E内容)。

最近では早朝から大口の引受があるのにゆうメイトが一人しかいない。夕方のピーク時になると、ほぼ同時にお客様のトラックがホームに横付けされ列ができる。たいていは板パレごとに種別、銘柄を分けて郵便物が載っているものだが、なかには一つの板パレに何種類かの違う郵便物をラップしてくるめるお客様もいる。郵便物を先に持ち込み後納票を後出しにするお客様もいる。未納で止めるためスペースの確保も必要となる。これらが輻輳<sup>ふくそうじ</sup>時、波のように押し寄せてくるのだ。そうなるともう郵便物を中に引き入れるので精一杯になる。当然検査の人的、時間的余裕もない(別納郵便物だけは後回しができないのでなんとか検査をしているが)。フルで動いているフォークも死ぬ。4台のフォークを充電させながらだましまし使うのだ。一方、カウンター内もてんやわんやだ。打番の必要な書留、速達、翌朝、代引き、小包等、ここに持ちこめば早いからと個人のお客様も見える。が、速やかに交付したくても手が回らない。別納郵便物を切手で納めるお客様もいる。高額になると切手を確認するだけでも時間を要する(収納後の消印作業もまたしかり)。○川○便の後納票は千枚をゆうに超える。その日に持ち帰るので計算と日付押印が優先作業となる。専属のゆうメイトが二人いたが辞めてしまった。外線、内線電話も容赦はない。問い合わせ、依頼、確認、苦情といとまがない。窓口はこちらの都合が通用しない世界だ。だから昼食の時間が二時間も三時間もずれる。ゆうメイトもずらして対処しているが休息は十分に取れていないのが現状だ。気が付けば勤務終了時間がとっくに過ぎていているということも。労働時間を適正に把握し、適切な労働時間管理を行わなくてはならない責任者が現場にいない。管理者も引受や窓口には姿を見せないから業務の流れが見えない。

これでいいのか?今のままで質の高いサービスは提供できるのか。公企業としての郵便局の使命は果たせるのか。今一度窓口の業務を精査し、適正要員の配置を切に願う。(投稿)

## 冬レクに行つて来ました —支部青年部主催—

2月18日と20日の日程で、支部青年部の主催の『スキ&ワカサギ釣り』に行つて来ました。

2月18日の朝、木島平スキー場には朝到着し、ワカサギ釣りを組みました。天気が良いので、バス

は滑りの得意で、ワカサギ釣りは、野尻湖へ行き、氷が張らないので、ワカサギ釣りが出来ます。ワカサギ釣りは、野尻湖へ行き、氷が張らないので、ワカサギ釣りが出来ます。ワカサギ釣りは、野尻湖へ行き、氷が張らないので、ワカサギ釣りが出来ます。ワカサギ釣りは、野尻湖へ行き、氷が張らないので、ワカサギ釣りが出来ます。

ト！釣ったワカサギを調理してもらい、美味しくいただきました。大変盛り上がりました。続いて場所を変えて宴会第二部が始まり、みなさん日頃の愚痴を言いあいなが懇親を深めました。最終日は、温泉組とスキ―組に分かれ、それぞれ木島平を満喫して、お昼過ぎに東京へ向け出発しました。帰りの車内は、疲れて寝る人、お酒を飲んで思い出話に華を咲かせる人など様々でしたが、無事に東京に帰って来ました。



今回の参加者は、7人と少ない人数でしたが、組合員のお子さんやゆうメイトの方の参加もあり、楽しいレクになったと思います。参加者のみなさんお疲れ様でした。今回参加出来なかった人は次回参加して下さいね。

